

図書館通信 —88—

1989. 7

取越苦勞

森口治生

2年間のやとわれマスターのおつとめ期間が何とか終わりました。

無類の怠けもののマスターをかかえ、おまけにその怠けものに何がしかの手当まで拂っているながら、図書館が潰れもせず生きながらえたことは、一つには親方日の丸のおかげとはいふものの、館員はじめ、色々御協力頂いた教職員、学生の皆さんに負う所で、感謝と御同慶に耐えません。

所でこれからは他人様の仕事になるので、無責任かつ遠慮なく言わせて頂くなら、図書館にはまだまだやるべき仕事は山程あります。20年前に大谷の本館が出来た時は、当時の規模の大学としては、少なくとも建物については一つのモデルでした。今我々の大学にとって必要最低限の役割は果たしているとしても、大学として自慢出来るものと言うには少し疑問を感じます。昔の荒れた校地の小さかった苗木が美しく緑に育って、あまりにも自然環境がよくなりすぎたからでしょうか。

もち論、図書館のありようは大学全体のありようと無関係ではありません。その意味では、図書館がどうなるかは、大学にかかわる皆が、大学をどう考えるかにかかっています。

夏休みに入りますが、休みになる度に、私は学生がいなければ大学程良い所はないという気になります。きっと大多数の教官も多かれ少なかれそんな気になることがおありでしょう。大多数の学生さんも教師がいなければ大学程良い所はないと思うことがあるでしょう。だが、これはどこかの国の大統領か何かの芸者との関係と同様(又はそれと違って)、たとえ腹の中でそう思っても、口にしたり書いたりしてはいけないことです。が、学生は若気の至りで、そう思うとすぐ実行にまで及びがちで、学生のなれの果てである教官も、とかく本音を吐きがちです。しかし時にはじっとがまんして、本音をおさえて建前を活かすことも必要なのでは。

つまり学生は勉強すべきものであり、教師は学生に勉強させるべきものであり、大ぜいの学生に教えることは、教えないことよりずっとよいことだと。

やがて数年のうちに、18才人口の減少期が来ます。ある意味で恵まれた世代になり、一方では老人大国を支えて行かなければならない彼等に、我々の大学は何を与えることが出来るのか。その中で図書館はどんな役割をもつのか。まだ急ぐことはないかも知れませんが、ぼちぼち考えて行かなければならないことでしょう。そんな時には、まず建前を考えておかないと、やがて本音を吐くことも出来なくなってしまうのかと。これがその時には、もう居なくなる老人の取越苦勞であってくれば幸ですが。

どうも余計なことばかりで申し訳ありません。ま、皆さんこれからもがんばって下さい。

(理学部・物理学、前館長)

SSCIの利用

参考調査係

■このほど参考図書コーナーに Social Science Citation Index (SSCI) が備付けられました。きわめてユニークな性格を持つ二次資料ですので、使い方の簡単な説明をして、紹介とします。

1. はじめに

学術論文には、例外なく引用文献欄が付加されています。先人の業績を語るとき、あるいは、自らの論拠の正統性を示すため、関連の文献を引用することは、学術論文では必須の条件ですし、その場合、それらを明示する必要があります。

被引用文献と引用文献の間には何らかの関係がありますから、引用文献欄に登場したひとかたまりの論文相互にも、何がしかの共通項を見い出せる、と考えることが可能となります。SSCIはそうした考えにもとずいて、引用文献欄に主眼をおいて作られている索引です。

(注1)

2. 概略

その名前のとおり、社会科学を対象としています。具体的には次の分野を扱っています。

人類学、考古学、地域研究、事務・財政、コミュニケーション、公衆衛生、犯罪・刑罰学、人口統計学、経済学、教育研究、人種問題、地理、歴史、図書館情報学、国際関係、法律学、言語学、経営学、マーケティング、哲学、政治学、精神医学、心理学、社会学、統計学、都市計

画・都市開発。

約1,500の雑誌(Fully Covered Source Journal)のすべての論文と、その2倍強の数の雑誌(Selectively Covered Source Journal)の重要な論文を対象とし、ここ数年は、毎年約13万点の論文を扱い、引用の数は150万を超えています。世界の中でも、最大級の索引のひとつ、とって差しつかえありません。

次の3つのものから形成されています。

3. Source Index (SI)

SSCIに収録されている全論文の著者別索引ですが、メイン・エントリーの次に引用文献欄をしたがえているところがミソ。図1の冒頭では、Am. J. Agr. Ec.誌の64巻2号に掲載されたD. M. Adamsの論文には、14の論文が引用されて

図1

first source author ——— ADAMS DM

HAYNES RW DUTROW GF BARBER RL ——— coauthors

VASIEVIC JM—PRIVATE INVESTMENT IN FOREST MANAGEMENT AND THE LONG-TERM SUPPLY OF TIMBER ——— source item title

AM J AGR EC 64(2) 232-241 87 14R F4512

OREGON STATE UNIV. CORVALLIS, OR 97331, USA

80 FOREST PRODUCTIVITY

68 17 REP

73 20 REP

90 REV DRAFT AN TIM SIT

77 OREGON STATE U FORES

80 FOREST SCI MONOGRAPH 19

79 THESIS OREGON STATE 22 1

79 BELL J SC 19 447

1878 REPORT FORESTRY 1

72 21 N CAR STAT U DEP

74 USDA FOR SERV TECH B 1908

87 HILGARDIA 30 1

80 FOREST POLICY PROJECT

74 FOREST SCI 20 191

year, journal abbreviation, volume and page of reference

ADAMS EK

THE FISCAL CONDITION OF THE STATES

PHI DEL KAP 63(9) 598-600 87 2R G4733

EDUC COMMISS STATES ON EDUC PROGRAMS DENVER, CO USA

US BUR EC AM

GOLD SD

82 1982 NAT COUNG STAT

source journal title

first source author's address

cross-referenced secondary author ——— ADEY M

see YESAVAGE JA J PSYCH TR 3 545 86

first source author ——— ADLER DA

■ A FRAMEWORK FOR THE ANALYSIS OF PSYCHOTHERAPEUTIC APPROACHES TO SCHIZOPHRENIA ——— source journal year

YALE J BIOL 58(3) 219-225 87 11R G0006

NEW ENGLAND MED CTR DIV ADULT PSYCHIAT BOX 1007.171

HARRISON AVE BOSTON, MA 02111, USA

ADLER DA 81 HOSP COMMUNITY PSYCH 32 387

ANTHONY WA 77 AM PSYCHOL 32 658

FRIEDSON E 66 SOCIOLOGY REHABILITA 71

MCGLASMAN TH 83 ARCH GEN PSYCHIAT 40 905

number of references

language of the book being reviewed

source item language code ——— AEBLI H

(GE) GOAL-DIRECTED BEHAVIOR-GERMAN-VONCRANACH, M. KALBERMATTEN, U

►BOOK REVIEW ——— term indicating type of item

PSYCHOLOGIE 40(2) 161-162 87 1R G5719

author of book being reviewed

AHARONI Y

PERFORMANCE EVALUATION OF STATE-OWNED ENTERPRISES—A PROCESS PERSPECTIVE

MANAG SCI 27(11) 1340-1347 87 8R G1097

TEL AVIV UNIV. RAMAT AVIV, ISRAEL

HEBR U JER 70 REP COMM PREP GOV CO 3 305

PRIV COUNG OFF 77 CROWN CORP DIR CONTR 40

UK GOV 81 CHND 1337 69

JENSEN MC 76 J FINANCIAL EC 2

MARRIS R 84 EC THEORY MANAGERIAL 59

PHATAK A 59 ANN PUBLIC COOPERATI 495

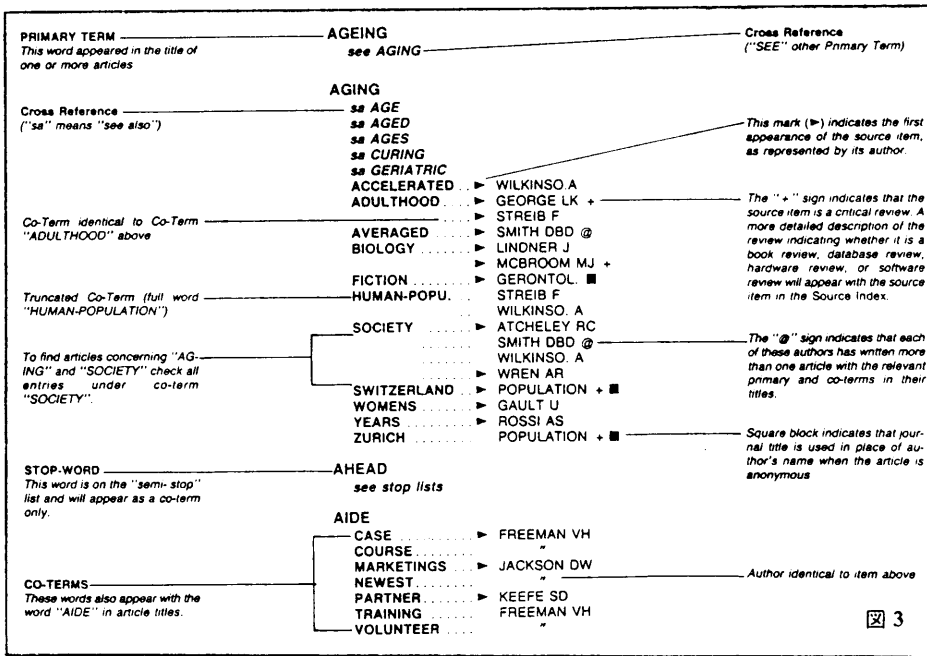
SIMON H 79 AM EC REV 69

TURVEY R 71 EC ANAL PUBL ENTER 49 253

Article can be purchased from ISI's "The Genuine Article" service. Refer to this ISI accession number when ordering.

(►) corporately authored references

source journal volume, (issue); and pagination



とは、収録範囲の大きさとあいまって、境界領域の分野に対して、非常に強力なアクセスを可能とします。

②過去にさかのぼるといっても、引用関係が連続と続くことは、動的变化を把握することを意味する訳ですので、未知の論文に対して的確な評価をするための手だてが求め易くなるでしょう。

もちろん、社会科学系で最大の規模を誇る索引ですので、CI、SI、PSIを、それぞれ独立したものとして使用することも、それなりに有効でしょう。

7. 長所と問題点

以上のように、かなり毛色のか変わった検索の方法が可能ですので、重複するかも知れませんが、その長所と問題点をまとめてみます。

基本的には、この索引の特長＝長所と表裏一体のものとして、問題点が存在します。特定の論文、あるいは単語から、未知の論文群へと検索の範囲を拡げることが可能ですが、拡大するほどに無関係なもの(ノイズ)が含まれ易くなります。このことへの対策(注4)もゼロという訳ではありませんが、完全に対処するには、大きな労力が必要となるでしょう。

Citation(引用)を検索の主な手段にするということは、特に、繰り返しの方法を導入する場合、過去へさかのぼることに他なりません。検索の結果として、誰れもが認める、その分野のスタートのマニフェストとでも言うべきものに到達したとするなら、その作業は限りなく正解に近いもの、ということも可能です。しかし、日々、ダイナミックに動向が変化するような分野では、そのような結果を得たとしても、ほとんど無意味、と言って差しつかえありません。

以上のような問題点を念頭に置いて作業を進めるなら、他の索引では不可能な、SSCIの次のような長所が、最大限に発揮される筈です。

① CI → SI → CI……と、発展的な検索が可能なの

③図2にあるように、CIには論文のタイプが示されていますので、それを的確にキャッチするならば、きわめて効率の良い検索が可能となります。とりあえずは、参考図書コーナーで、手にとってみることをおすすめします。

(注1) この種の索引で、最初に実用化されたものは、判例を対象とした、アメリカのShepard's Citationだといわれています。さもありなん、という気がしますが、SSCIの出版元ISI社では、人文科学・芸術の分野を対象としたAHCI、自然科学分野でのSCIも発行しています。

(注2) Sc. J. S. Med.などというのは、SSCIで使用されている略誌名。膨大な量の情報を、できる限りコンパクトにまとめようとした結果生じたものですが、本索引の使いにくさの原因のひとつとなっています。

(注3) SIからCIが導かれ、その副産物としてPSIが出来た、というのは、本稿の筆者の《想像》にすぎませんが、まったくの見間違いということは無いと考えられます。

(注4) 2つの文献が同一文献を引用した時、一定の評価を与え、その評価のもとに一定の文献群を選び出す方法、あるいは、互いに引用関係の無い論文が、同時に引用された時、そのふたつを一つのセットと考え、そのセットの出現に評価を与え、やはり、ひとつの文献群を形成する方法、などが考え出されています。

図 3

図書館委員会報告

(昭和63年度第2回 S 63.12.7・水)

議事

1. 昭和63年度学生用図書購入費第2次配分について審議し、原案どおり承認した。
2. 昭和63年度外国雑誌購入費の配分について、原案どおり承認した。
3. 昭和64年度指定図書の実施方針を承認した。
4. 昭和64年度大型コレクション収書計画については、関係部局に収書計画調書の提出を依頼し、その提出期限を昭和64年2月末日とすることを了承した。
5. 昭和65年度概算要求事項(図書館の冷房)については、東部図書館委員会の審議結果に基づき要求することを了承した。

(昭和63年度第3回 H 1.3.24・金)

議事

1. 平成元年度図書館経費の編成方針については、「図書館経費の配分及び負担等の基準」とおり編成することを承認した。
2. 平成元年度図書館業務電算化実施計画を了承した。
3. 平成元年度大型コレクション収書計画については、調書の提出があった3件の資料を文部省に要求することとし、その要求順位については、人文学部、教育学部、教養部、法経短大の4部局で協議のうえ決定することを了承した。
4. 他大学への配置換えに伴う図書の管理換の希望があり、これを了承した。

(平成元年度第1回 H 1.5.10・水)

議事

1. 文献複写料金の改正に係る「静岡大学附属図書館文献複写規程の一部を改正する規程(案)」を承認した。
2. 平成元年度図書館運営費予算の編成に当り、試算表により運営費予算の増額について各部局教授会等で検討願うこととした。
3. 平成元年度図書館業務電算化委員会委員を了承した。
4. 平成元年度大型コレクションの要求順位については、関係4学部で協議の結果合意した順位により、文部省に提出することとした。

(平成元年度第2回 H 1.6.13・火)

議事

1. 平成元年度図書館運営費予算について、「図書館運営費予算案」及び「部局別負担額内訳案」により審議の結果、これを了承した。また、この予算案を委員会案として、各部局教授会等で検討願うこととした。
2. 平成元年度学生用図書購入費の配分について原案どおり承認した。
3. 平成元年度指定図書購入費負担額について審議の結果原案どおり了承した。

☆平成元年度図書館委員会委員名簿

館長	水野秀夫	
分館長	藤田郁夫	
人文学部	山脇貞司	本多隆成
教育学部	澤渡千枝	花井信
理学部	佐藤宏樹	近田文弘
工学部	深林太計志	
農学部	伊藤忠夫	山田雄三
教養部	若杉英治	南利明
電子工学研究所	杉浦敏文	豊田耕一
電子科学研究科	佐々木彰	秋山鉄夫
法経短期大学部	松富弘志	
本部	森脇英一	
附属図書館	宮島太郎	

☆平成元年度図書館業務電算化委員会委員名簿

館長	水野秀夫	
分館長	藤田郁夫	
人文学部	居城弘	本多隆成
教育学部	澤渡千枝	堀江雅幸
理学部	佐藤宏樹	小沼茂樹
農学部	伊藤忠夫	山田雄三
教養部	馬場良和	南利明
法経短期大学部	松富弘志	石橋太郎
工学部	阿部圭一	深林太計志
電子工学研究所	杉浦敏文	宮尾正大
電子科学研究科	秋山鉄夫	
附属図書館	事務部長	情報管理課長
	情報サービス課長	学術情報係長

☆平成元年度「図書館通信」編集委員

館長	水野秀夫	
人文学部	山脇貞司	
教育学部	澤渡千枝	
図書館	望月信夫	石原良江
	横山芳美	川崎雅史

教職員著作寄贈図書(本館)

- 山口幸洋 (元教養部非常勤講師)
『方言研究年報 第28巻 (1985)・第29巻 (1986)』<執筆> 和泉書院⇨818/H 73/28・29
『「静岡市曲金」の研究』著者⇨818.54/Y 24
須藤 修 (法経短期大学部)
『ノイズと経済秩序』日本評論社⇨332.06/Su14
植松 茂 (名誉教授)
『古代歌謡演出論』明治書院⇨911.11/U 41
『植松茂岳 第3部』愛知県郷土資料刊行会⇨121.27/U 41 U/3・3 A
菅野禮行 (教育学部)
『平安初期における日本漢詩の比較文学的研究』大修館書店⇨919.3/Su 25 (開架)
黒羽清隆 (元教育学部)
『黒羽清隆詩集 いまはけものたちのねむりのとき』日日授業実演会⇨911.56/Ku 72
上田伝明 (教養部)
『マニフェスト・デスティニとアメリカ憲法』法律文化社⇨323.53/U 32
大橋昭夫 (元法経短期大学部非常勤講師)
『明治維新とあるお雇い外国人』<共著> 新人物往来社⇨289.3/V 61 O
伊藤正義 (教育学部)
『ゲスタ ロマノールム』<訳>篠崎書林⇨194/G38
小澤康彦 (人文学部)
『イギリス・ロマン主義に向けて』<執筆> 名古屋大学出版会⇨930.2/Ka 97
上野実朗 (名誉教授)
『植物文化誌』著者⇨470.4/U 45
静岡大学教育学部附属浜松中学校
『自己学習能力を育てる』<編>編者⇨375/Sh 94
静岡大学教育学部
『生涯学習の体系化と社会教育の実践的展開』<編> 静岡大学⇨379/Sh 95
松田敬一郎 (名誉教授)
永井衛・村井宏・澤田均・横田博実 (農学部)
『アラブ首長国連邦砂漠緑化研究協力中間業務報告書』<執筆>国際協力事業団⇨614.3/Ko 51
山本義彦 (人文学部)
『戦間期日本資本主義と経済政策』柏書房⇨332.1/Y 31

川口博 (人文学部)

- 『伝統と近化』<編著> 彩流社⇨230.5/Ka 92
若林淳之 (名誉教授)
『静岡県風土記』<監修> 旺文社⇨291.54/Sh 94
本多隆成 (人文学部)
『近世初期社会の基礎構造』吉川弘文館⇨215/H84

☆人事異動

- 新任 (元. 7. 1付)
水野秀夫 館長 (農学部教授)
藤田郁夫 分館長 (工学部教授)
○退任 (元. 6. 30付)
森口治生 館長 (理学部教授)
大山 襄 分館長 (工学部教授)
○配置換 (元. 4. 1付)
塩澤住夫
(情報管理課総務係長→農学部会計係長)
松永幸夫
(情報管理課和書係→理学部会計係)
成島 彰
(教育学部附属養護学校・幼稚園事務係長→情報管理課総務係長)
藤田 洋
(情報管理課総務係→情報管理課和書係)
向坂浩一
(情報管理課洋書係→情報管理課総務係)
山本 孝
(情報サービス課参考調査係→情報管理課洋書係)
溜淵文子
(情報サービス課運用係→情報サービス課参考調査係)

☆お知らせ

◎文献複写料金の改正について

本年4月より消費税が実施され、それに伴い、国立大学図書館の文献複写料金が改正されました。主なものは電子式複写方式による学外者料金で、従来の1枚45円から50円になりました。従って、他の国立大学に複写を申し込んだ場合これが適用されます。他にマイクロフィルム方式によるもの等、一部改正がありますが、ご利用の際、参考調査係へお尋ね下さい。

お知らせ(本館)

1. 貸出期間の延期

7月1日(土)から8月30日(水)の間に貸出した図書の返却期限は、9月7日(木)とします。

2. 閉館時刻の変更

7月21日(金)から8月31日(木)までの間、閉館時刻は次のとおりです。
平日 午後5時
土曜日 正午